

「波状雲の美」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

空に浮かぶ雲は、おおまかに分類すると、十種類になる。俗に「十種雲型」と呼ばれていて、最近は小学校の教科書にもすべての種類が載るようになった。しかし、これはおおまかな分類であって、細かく分けると、それぞれの雲型に多くのバリエーション(派生型)が存在する。

その派生型の一つが「波状雲(はじょううん)」である。層状、または膜状に広がった雲によく見られ、一般に巻積雲、巻層雲、高積雲、高層雲、層積雲の派生型として観測される。稀に低層の層雲(霧雲)にも出現する。波状雲は、「雲粒のある場所とない場所が交互に出現した状態」である。上空にそのような条件が現れた時に見られるわけだ。上層の風が原因のこともあるが、主な原因は「大気波」と呼ばれる重力波の一種であるという。風だけが成因ではない証拠に、上空のさまざまな方向に波模様をつくることがある。



「波状高積雲」 文京区で撮影

ページ左側の写真を撮った翌日には、波状高積雲が出現した。高積雲は、巻雲系に比べるとずっと高度が低く、一つの畝も大きく見える。これも刻々と形状が変化し、非常に美しい。写真には積雲も写っているが、このあと片積雲(ちぎれ雲)が高速で飛び、再び天候が悪化した。



「変化巻雲」 文京区で撮影

上の写真を撮った日の空には、放射状巻雲、巻積雲、背状巻雲、濃密巻雲などが混在していた。このような状態を「変化巻雲」と呼ぶ。連続して観察していると、飛行機雲が肋骨状巻雲に発達したり、比較的短時間で巻積雲が波状巻積雲に変化する様子がわかる。上層大気が不安定な証拠で、波状雲が現れやすい空といえる。この写真を撮影した日の夜には、東京は雨になった。



これも「波状高積雲」だが、上端にやや渦状の構造が認められ、その渦が動いて見えたので、不安定波によってつくられた雲であろう。雲は面白い。雲だけを撮影する写真家がいるのも、よくわかる気がする。